

平成 24 年度登録販売者試験問題 前半

第 1 章 医薬品に共通する特性と基本的な知識 (20 問)

第 3 章 主な医薬品とその作用 (40 問)

受験番号

※試験問題は 1 ページから 30 ページまでに、問 1 から問 60 まであります。試験開始後すぐに試験問題が全てあるか確認してください。もし落丁などがあった場合には速やかに交換を申し出てください。(試験終了後の申し出には対応できません。)

第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1

医薬品の本質に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医薬品が人体に及ぼす作用は、単純で、すべて解明されている。
- 2 人体に対して使用されない医薬品は、人の健康に影響を与えることはない。
- 3 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる。
- 4 一般用医薬品のリスク区分は、見直されることはない。

問2

次の記述は、医薬品の副作用の定義である。()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の()内には同じ字句が入る。

我が国では、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法第4条第6項において「(a)が(b)な使用目的に従い(b)に使用された場合においてもその(a)により人に発現する(c)な反応」を医薬品の副作用と定義している。

	a	b	c
1	許可医薬品	適正	有害
2	許可医薬品	任意	無害
3	無承認医薬品	適正	有害
4	無承認医薬品	任意	無害
5	無許可医薬品	適正	有害

問3

医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 薬理作用とは、薬物が生体の生理機能に影響を与えることをいう。
- 2 医薬品の副作用は、薬理作用によるものとアレルギー（過敏反応）に大別される。
- 3 アレルギーにおいては、過剰に組織に刺激を与えることはない。
- 4 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用が、別の疾病の症状を悪化させることもある。

問4

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副作用は、眠気や口渇等の比較的良好に見られるものから、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものまで様々である。
- b 一般用医薬品においては、通常、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先される。
- c 副作用は、血液や内臓機能への影響等のように、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。
- d 購入者等が一般用医薬品を継続して使用する場合は、特段の異常が感じられなくても定期的に検診を受けるよう、医薬品の販売等に従事する専門家から促していくことも重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問5

医薬品の不適正な使用と有害事象に関する記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。なお、()内には同じ字句が入る。

医薬品を本来の目的以外の意図で、定められた用量を意図的に超えて服用したり、みだりに他の医薬品や酒類等と一緒に摂取するといった乱用がなされ、()を生じることがある。

()とは、ある薬物の精神的な作用を体験するために、その薬物を連続的、あるいは周期的に摂取することへの強迫（欲求）を常に伴っている行動等によって特徴づけられる精神的・身体的な状態をいう。

- 1 薬物依存 2 躁鬱^{そううつ}症状 3 薬物耐性 4 健忘症 5 離脱症状

問6

医薬品の不適正な使用と有害事象に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 一般用医薬品を使用して症状を一時的に緩和するだけの対処を漫然と続けても、有害事象を招く危険性はない。
- 2 一般用医薬品は、「よく効けばよい」と考えて、定められた用量を超える量を服用しても問題ない。
- 3 小児への使用を避けるべき医薬品を「子供だから大人用のものを半分にして飲ませればよい」として服用させても、有害事象を招くことはない。
- 4 定められた用量を意図的に超えて服用したり、みだりに他の医薬品や酒類等と一緒に摂取するといった乱用がなされると、過量摂取による急性中毒等を生じる危険性が高くなる。

問7

医薬品の相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 相互作用には、医薬品が吸収、代謝（体内で化学的に変化すること）、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- b 相互作用を回避するため、医薬品を使用している期間やその前後を通じて、その医薬品と相互作用を生じるおそれのある医薬品の摂取を控えなければならない。
- c 相互作用により、医薬品の作用が増強すれば、効果が強く出過ぎたり、副作用が発生しやすくなり、また、医薬品の作用が減弱すれば、十分な効果が得られないなどの不都合を生じる。
- d 複数の医薬品を併用すると相互作用が起こることがあるが、医薬品と食品と一緒に摂取しても相互作用は起こることはない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問8

次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多く、相互作用に関して特に注意が必要となる。
- 2 かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰薬、アレルギー用薬等では、成分や作用が重複することが多いため、これらの薬効群に属する医薬品は併用すべきである。
- 3 副作用や相互作用のリスクを減らす観点から、緩和を図りたい症状が明確である場合には、なるべくその症状に合った成分のみが配合された医薬品が選択されることが望ましい。
- 4 医療機関で治療を受けている場合には、その治療が優先されることが望ましい。

問9

小児等の医薬品の使用に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 小児という場合のおおよその目安は、12歳未満である。
- 2 全ての医薬品は、形状等が小児向けに作られている。
- 3 乳幼児の誤飲・誤用事故の場合には、想定しがたい事態につながるおそれがある。
- 4 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が低い。

問10

高齢者への配慮に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあり、肝臓や腎臓の機能が低下しているが、医薬品による副作用のリスクは高くない。
- b 高齢者へ一般用医薬品を販売する際、その医薬品を使用する高齢者の個々の状況は考慮しなくてよい。
- c 高齢者は、喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている場合があるが、内服薬を使用する際に喉に詰まらせることはない。
- d 高齢者は、細かい文字が見えづらく、添付文書や製品表示の記載を読み取るのが難しい場合があるが、話を聞くことができるので、情報提供や相談対応において特段の配慮は必要ない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 11

妊婦に関する記述について、() の中に入れるべき正しい字句はどれか。

妊婦が一般用医薬品を使用する際には、妊婦の状態を通じて胎児に影響を及ぼすことがないよう配慮する必要がある。母体が医薬品を使用した場合に、() によって、どの程度医薬品の成分の胎児への移行が防御されるかは、未解明のことが少なくない。

- 1 血液脳関門 2 胎盤関門 3 使用量 4 血液量 5 肝臓機能

問 12

妊婦、妊娠していると思われる女性及び母乳を与える女性（授乳婦）に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 全ての医薬品について、妊婦に使用する場合は、十分注意して適正に使用する必要があるが、使用そのものを避ける必要はない。
- b ビタミンA含有製剤は、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取しても胎児には影響はない。
- c 医薬品の種類によっては、体に吸収された医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することが知られている。
- d 便秘薬は、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 13

医療機関で治療を受けている人に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 生活習慣病等の慢性疾患を持っている場合、疾患の種類や程度によっては、一般用医薬品の有効性や安全性に影響を与える要因となることがある。
- 2 医療機関での治療を受けていない場合は、特定の症状がある人が一般用医薬品を使用しても問題は生じない。
- 3 購入しようとする医薬品を使用することが想定される人が医療機関で治療を受けている場合には、疾患の程度やその医薬品の種類に応じて、問題を生じるおそれがあれば使用を避けることができるよう情報提供がなされることが重要である。
- 4 医療機関や薬局で交付された薬剤を使用している人については、一般用医薬品との併用の可否について、その薬剤を処方した医師若しくは歯科医師又は調剤を行った薬剤師に相談するよう説明する必要がある。

問 14

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品に配合されている成分には、高温や多湿、光（紫外線）等によって品質の劣化（変質・変敗）を起ししやすいものが多い。
- b 医薬品を保管・陳列する場所は、清潔性が保たれるとともに、その品質が十分保持される環境となるよう留意する必要がある。
- c 医薬品は、変質した場合であっても、それが一部であれば販売することができる。
- d 医薬品の外箱等に表示されている「使用期限」は、開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 15

一般用医薬品の定義に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

一般用医薬品は、薬事法第25条第1項に「医薬品のうち、その(a)において人体に対する作用が(b)のものであって、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく(c)の選択により使用されることが目的とされているもの」と定義されている。

	a	b	c
1	効能及び効果	著しい	専門家
2	使用目的及び安全性	著しい	需要者
3	効能及び効果	著しくない	専門家
4	使用目的及び安全性	著しくない	需要者
5	効能及び効果	著しくない	需要者

問 16

セルフメディケーションと一般用医薬品に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 世界保健機関(WHO)によれば、セルフメディケーションとは「自分自身の健康に責任を持ち、全ての身体の不調を自分で手当てする」こととされている。
- 2 近年、専門家による適切なアドバイスの下、身近にある一般用医薬品を利用するセルフメディケーションの考え方がみられるようになってきている。
- 3 セルフメディケーションの主役は登録販売者である。
- 4 症状が重いときに一般用医薬品を一定期間使用して症状の改善がみられない場合は、一般用医薬品を使用し続ける必要がある。

問 17

販売時のコミュニケーションに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 医薬品の販売に従事する専門家は、可能な限り、購入者側の個々の状況の把握に努めることが重要である。
- b 一般用医薬品は、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、医薬品の販売に従事する専門家は、その医薬品がすぐに使用される状況にあるか把握に努めることが望ましい。
- c 購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しく、コミュニケーションが成立しがたい場合は、医薬品の販売に従事する専門家は、購入者から医薬品の使用状況にかかる情報を引き出す必要はない。
- d 情報提供を受ける購入者等が医薬品を使用する本人で、かつ、現に症状等がある場合には、その人の状態や様子から状況を把握してはいけない。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 18

サリドマイドに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 サリドマイド訴訟は、妊娠している女性がサリドマイド製剤を使用したことにより、出生児に四肢欠損等が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 サリドマイドは催眠鎮静成分として承認されたが、副作用として血管新生を妨げる作用もあった。
- 3 サリドマイドの光学異性体のうち、*R*体には有害作用がないことから、*R*体のサリドマイドを分離して製剤化すると催奇形性を避けることができる。
- 4 日本では、1961年12月に西ドイツ（当時）の企業からの勧告を受け、かつ翌年になってからもその企業から警告が発せられていたにもかかわらず、出荷停止は1962年5月まで行われず、販売停止及び回収措置も同年9月であるなど、対応の遅さが問題視されていた。

問 19

スモン訴訟に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、(a)に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。スモンはその症状として、初期には腹部の(b)から激しい腹痛を伴う(c)を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。麻痺は上半身にも広がる場合があり、ときに視覚障害から失明に至ることもある。

	a	b	c
1	急性骨髄性白血病	膨満感	下痢
2	亜急性脊髄視神経症	膨満感	便秘
3	急性骨髄性白血病	空腹感	便秘
4	亜急性脊髄視神経症	空腹感	下痢
5	亜急性脊髄視神経症	膨満感	下痢

問 20

H I V訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 脳外科手術等に用いられていたヒト乾燥硬膜を介してヒト免疫不全ウイルス（H I V）に感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- b 本訴訟の和解を踏まえ、国は、エイズ治療研究開発センター及び拠点病院の整備等の様々な取組みを推進してきている。
- c H I V訴訟を契機として、1979年に医薬品副作用被害救済制度が創設された。
- d 1999年に建立された「誓いの碑」には、薬害エイズ事件の反省と、医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことが刻まれている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

第3章 主な医薬品とその作用

問 21

かぜ薬に配合される成分とその配合目的との関係のうち、正しいものはどれか。

(成分)	(配合目的)
1 フマル酸クレマスチン	－ 発熱を鎮め、痛みを和らげる。
2 塩化リゾチーム	－ くしゃみや鼻汁を抑える。
3 リン酸コデイン	－ 炎症による腫れを和らげる。
4 アセトアミノフェン	－ 痰の切れを良くする。
5 塩酸メチルエフェドリン	－ 鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を拡張する。

問 22

第1欄の記述は、かぜの諸症状の緩和に用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第2欄のどれか。

第1欄

かぜのひき始めにおける諸症状、頭痛、肩こり、筋肉痛、手足や肩の痛みに適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることが知られている。

第2欄

- 1 小青竜湯
- 2 麻黄湯
- 3 小柴胡湯
- 4 葛根湯
- 5 桂枝湯

問 23

解熱鎮痛薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アスピリン (アスピリンアルミニウムを含む。)、サザピリンについては、一般用医薬品では、小児に対してはいかなる場合も使用しないこととなっている。
- b プロスタグランジンには、胃酸の分泌を調節する働きや、胃腸粘膜の保護に寄与する働きもあり、これらの働きが解熱鎮痛成分によって妨げられると胃酸の分泌が減少し、また、胃壁の血流量が上昇することにつながる。
- c イブプロフェンは、アスピリンに比べて胃腸への影響が大きい。
- d 心臓病、腎臓病、肝臓病又は胃・十二指腸潰瘍かいようの基礎疾患がない場合であっても、長期間に渡って解熱鎮痛薬が使用されると、自覚症状がないまま徐々に臓器の障害が進行するおそれがあり、長期連用は避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 24

眠気を促す薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸ジフェンヒドラミンを含有する催眠鎮静薬を服用する場合は、飲酒を避ける必要がある。
- b 桂枝加竜骨牡蛎湯けいしかりゆうこつぼれいとうは、精神不安があり、動悸きや不眠などを伴う人における、高血圧の随伴症状 (動悸、不安、不眠)、神経症、更年期神経症に適すとされ、構成生薬としてダイオウを含む。
- c ブロムワレリル尿素は、胎児障害の可能性があるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避けることが望ましい。
- d 抑肝散加陳皮半夏よくかんさん かちんぴはんげは、虚弱体質で神経が昂ぶたかる人における神経症、不眠症に適すとされ、胃腸の弱い人でも問題なく使用できる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 25

カフェインに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 脳に軽い興奮状態を引き起こす作用を示し、眠気や倦怠感を一時的に抑える効果が期待される。脳が過剰に興奮すると、副作用として振戦（震え）、めまい、不安、不眠、頭痛を生じることがある。
- b 胃液の分泌を抑制させる作用があり、副作用として胃腸障害（食欲不振、悪心・嘔吐）が現れることがある。
- c 心筋を興奮させる作用もあり、副作用として動悸が現れることがある。心臓病の診断を受けた人は、服用を避ける必要がある。
- d 習慣性は全くないので、長期間服用しても問題はない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 26

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の()内には同じ字句が入る。

(a)は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。抗ヒスタミン成分である(b)と(c)は、延髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。(c)は、外国において、乳児突然死症候群や乳児睡眠時無呼吸発作のような致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、小児では使用を避ける必要がある。

	a	b	c
1	ジメンヒドリナート	塩酸ジフェニドール	塩酸メクリジン
2	ジメンヒドリナート	塩酸メクリジン	臭化水素酸スコポラミン
3	塩酸メクリジン	臭化水素酸スコポラミン	ジメンヒドリナート
4	塩酸ジフェニドール	テオクル酸プロメタジン	ジメンヒドリナート
5	塩酸ジフェニドール	ジメンヒドリナート	テオクル酸プロメタジン

問 27

小児の疳^{かん}を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ゴオウは、緊張や興奮を鎮め、また、血液の循環を促す作用等を期待して用いられる。
- b レイヨウカクは、鎮静、健胃、強壯などの作用を期待して用いられる。
- c 小建中湯^{しょうけんちゅうとう}は、構成生薬としてカンゾウを含むが、乳幼児に使用される場合は体格の個人差から体重当たりのグリチルリチン酸の摂取量が多くなることがあることに加え、比較的長期間（1ヶ月位）服用することがあるので、特に留意する必要がある。
- d 柴胡加竜骨牡蛎湯^{さいこかりゅうこつぼれいとう}は、構成生薬としてマオウを含む。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 28

鎮咳去痰薬^{がいかんたん}に用いられる成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a カルボシステインは、気管支を拡張し、呼吸を楽にして咳^{せき}や喘息^{ぜん}の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- b ジプロフィリンは、気道の炎症を和らげることを期待して用いられる。
- c グアイフェネシンは、気道粘膜からの分泌^{たん}を促進し、痰の切れを良くすることを期待して用いられる。
- d キョウニン^{せき}は、バラ科のアンズ^{ぜん}の種子を用いた生薬である。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 29

口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ヨウ素系殺菌消毒成分が口腔内に使用される場合、バセドウ病や橋本病などの甲状腺疾患の診断を受けた人では、その治療に悪影響（治療薬の効果減弱など）を生じるおそれがある。
- b グルコン酸クロルヘキシジンが配合された含嗽薬については、口腔内に傷やひどいただれのある人では、強い刺激を生じるおそれがあるため、使用を避ける必要がある。
- c 塩化ベンゼトニウムは、声がれ、喉の荒れ、喉の不快感、喉の痛み又は喉の腫れの症状を鎮めることを目的として用いられる。
- d グリセリンは、口腔内や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として用いられる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 30

胃の薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 制酸薬は、炭水化物、脂質、蛋白質等の分解に働く酵素を補うことにより、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的とする医薬品である。
- b 健胃薬は、弱った胃の働きを高めることを目的とする医薬品である。配合される生薬成分は独特の味や香りを有し、唾液や胃液の分泌を促して胃の働きを活発にする作用があるとされる。
- c 消化薬は、胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐き気等の症状を緩和することを目的とする医薬品である。
- d 消化不良、胃痛、胸やけなど症状がはっきりしている場合は、効果的に症状の改善を図るため、いわゆる総合胃腸薬より、症状に合った成分のみが配合された製品が選択されることが望ましい。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 31

腸の薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a タンニン酸アルブミンは、牛乳にアレルギーのある人では使用を避ける必要がある。
- b 塩酸ロペラミドは、中枢神経系を抑制する作用もあり、副作用としてめまいや眠気が現れることがあるため、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。
- c センナ、センノシドについては、吸収された成分の一部が乳汁中に移行して、乳児に下痢を生じるおそれがあり、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避ける必要があるが、ヒマシ油については、使用期間中に授乳しても問題はない。
- d 硫酸ナトリウムは、血液中の電解質のバランスが損なわれ、心臓の負担が増加し、心臓病を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 32

第1欄の記述は、腸の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第2欄のどれか。

第1欄

比較的体力があり、下腹部痛があつて、便秘しがちな人における、月経不順、月経困難、便秘、痔疾に^じ適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

第2欄

- 1 桂枝加芍薬湯けいし か しやくやくとう
- 2 大黃甘草湯だいおうかんそうとう
- 3 麻子仁丸ましにんがん
- 4 大黃牡丹皮湯だいおうぼたんびとう
- 5 八味地黄丸はちみじおうがん

問 33

胃腸鎮痛鎮痙薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸パパペリンは、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣を鎮める作用を示すとされ、胃酸の分泌を抑える。
- b ロートエキスは、吸収された成分の一部が母乳中に移行して乳児の脈が速くなる（頻脈）おそれがあるため、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避ける必要がある。
- c オキセサゼインには、胃液分泌を抑える作用はない。
- d アミノ安息香酸エチルは、乳幼児ではメトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児への使用は避ける必要がある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 34

浣腸薬及び駆虫薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a グリセリンやソルビトールは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して用いられる。
- b 炭酸水素ナトリウムは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- c サントニンは、回虫に痙攣を起こさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- d カイニン酸は、回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 35

強心薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a センソは一般用医薬品では、1日用量が5mg以下になるよう用法・用量が定められている。
- b ジャコウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管拡張による血圧降下、興奮を鎮める等の作用があるとされる。
- c 苓桂朮甘湯はカンゾウを含有するため、高血圧、心臓病、腎臓病の診断を受けた人では、カンゾウ中のグルチルリチン酸による偽アルドステロン症を生じやすい。
- d 強心薬については一般に、5～6日間使用しても症状の改善がみられない場合には、心臓以外の要因も考えられるので、医薬品の販売等に従事する専門家は、医療機関の受診を勧奨することが重要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 36

高コレステロール改善薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 リノール酸、ポリエノスファチジルコリンは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を抑制する効果を期待して用いられる。
- 2 パンテチンは、肝臓におけるコレステロール代謝を正常化する働きがあるとされ、低密度リポ蛋白質(LDL)の分解を促す。また、高密度リポ蛋白質(HDL)が形成される過程に働いて、HDLを増加させる効果を期待して用いられる。
- 3 ビタミンB₂は、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害(手足の冷え、痺れ)の緩和等を目的として用いられる。
- 4 大豆油不飽和脂肪酸(ソイステロール)には、末梢組織におけるコレステロールの吸収を促進する働きがあるとされる。

問 37

第 1 欄の記述は、貧血用薬に配合される金属成分に関するものである。該当するものは第 2 欄のどれか。

第 1 欄

糖質・脂質・蛋白質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する。

第 2 欄

- 1 コバルト
- 2 鉄
- 3 マンガン
- 4 銅
- 5 亜鉛

問 38

第 1 欄の記述は、循環器用薬で用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤は第 2 欄のどれか。

第 1 欄

比較的体力があり、のぼせ気味で、顔面紅潮し、精神不安で、便秘の傾向にある人における、高血圧に伴う諸症状（のぼせ、肩こり、耳鳴り、頭重感、不眠、不安）、鼻血、痔出血、便秘、更年期障害、血の道症に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人、だらだら出血が長引いている人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

第 2 欄

- 1 薏苡仁湯
- 2 呉茱萸湯
- 3 加味帰脾湯
- 4 七物降下湯
- 5 三黄瀉心湯

問 39

登録販売者の対応として、正しいものはどれか。

- 1 痔出血の症状がある人に対し、グリセリンが配合された浣腸薬の使用を勧めた。
- 2 高コレステロール改善薬は、生活習慣病の予防につながるものであるとともに、腹囲を減少させるなどの^そ瘦身効果を目的とすることも併せて説明した。
- 3 かぜに対する民間療法としてしばしば酒類（アルコール）の摂取がなされているため、かぜ薬の服用とともに、酒類の摂取を勧めた。
- 4 透析療法を受けている人に対し、制酸成分としてアルミニウムを含む胃腸薬の使用を避けるよう説明した。

問 40

下記の成分で示される医薬品を購入、服用しようとする30歳の男性から相談を受けた。登録販売者が説明する上で必要な事項に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

1日量の成分	
リン酸ジヒドロコデイン	30 mg
塩酸ブロムヘキシン	12 mg
フマル酸クレマスチン	1.34 mg
d1-塩酸メチルエフェドリン	75 mg
ノスカピン	60 mg
無水カフェイン	90 mg

- 1 一定期間使用しても症状の改善が見られない場合には、漫然と使用を継続せずに医療機関を受診するよう説明した。
- 2 本剤の服用中でも、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要はないと説明した。
- 3 本剤は、d1-塩酸メチルエフェドリンを含有しており、基礎疾患として糖尿病があると、血糖値を上昇させ、糖尿病を悪化させるおそれがあるため、糖尿病の有無について確認した。
- 4 本剤の副作用として、便秘が現れることがあると説明した。

問 41

痔及び痔疾用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 直腸粘膜には知覚神経が通っていないため、直腸粘膜にできた内痔核は自覚症状が少ない。
- b 外用痔疾用薬のなかには、局所麻酔成分として塩化リゾチームを含むものがある。
- c 止血成分である塩酸メチルエフェドリンが配合された坐剤については、交感神経系に対する刺激作用によって、糖尿病や高血圧を悪化させるおそれがある。
- d 痔瘻は、肛門に存在する細かい血管群が部分的に拡張し、肛門内にいぼ状の腫れが生じた状態である。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 42

痔疾用薬の相互作用に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

外用痔疾用薬のうち坐剤及び注入軟膏については、成分の一部が (a) で吸収されて循環血流中に入り、内服の場合と同様の影響を生じることがある。痔疾用薬の成分と (b) の作用を有する成分を含む内服薬や医薬部外品等が併用されると、効き目が (c) 現れることがある。

	a	b	c
1	胃	同種	強く
2	胃	異種	弱く
3	直腸	同種	弱く
4	直腸	異種	強く
5	直腸	同種	強く

問 43

次の泌尿器用薬の成分のうち、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示し、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いるものはどれか。

- 1 カゴソウ
- 2 サンキライ
- 3 ソウハクヒ
- 4 ウワウルシ
- 5 キササゲ

問 44

次の表は、ある点鼻薬に含まれている成分表の一部である。この医薬品に含まれる成分に関する記述のうち、正しい組み合わせはどれか。

1 mL 中	
塩酸ナファゾリン	0.5 mg
塩化ベンゼトニウム	0.2 mg
マレイン酸クロルフェニラミン	5 mg
グリチルリチン酸二カリウム	3 mg

- a 塩酸ナファゾリンは、過度の使用により、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- b 塩化ベンゼトニウムは、細菌による二次感染を防止することを目的として配合される。
- c マレイン酸クロルフェニラミンは、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える抗アレルギー成分である。
- d グリチルリチン酸二カリウムは、痒み^{かゆ}を抑えることを目的とした局所麻酔成分である。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 45

婦人用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊娠中の女性ホルモン成分の摂取による胎児の先天性異常の発生が報告されており、妊婦又は妊娠していると思われる女性では、女性ホルモン成分を配合した婦人用薬の使用を避ける必要がある。
- b 婦人用薬は、月経及び月経周期に伴って起こる症状を中心として、女性に現れる特有な諸症状の緩和と、保健を主たる目的とする医薬品である。
- c 婦人用薬の効能効果として、更年期障害、のぼせ、肩こり、手足のしびれ等に用いられる。
- d エチニルエストラジオール、エストラジオールを含有する婦人用薬は、内服薬のみが認められている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 46

アレルギー用薬に含まれる成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ベラドンナ総アルカロイドは、鼻腔内の粘液分泌腺からの粘液の分泌を抑えることを目的として用いられる。
- 2 塩酸フェニレフリンは、鼻粘膜の血管を拡張させることによって充血や腫れを和らげることが目的として用いられる。
- 3 皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的としてカンゾウが配合される場合がある。
- 4 皮膚や粘膜の健康維持・回復に重要なビタミンを補給することを目的として、ニコチン酸アミドが配合される場合がある。

問 47

鼻炎及び鼻炎用点鼻薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲には、「蓄膿症」などの慢性のものが含まれる。
- b 鼻炎用点鼻薬には、アレルギー性の鼻炎等の症状を緩和し、原因そのものを取り除く作用がある。
- c かぜ症候群に伴う鼻炎症状の場合、鼻炎が続くことで副鼻腔炎や中耳炎などにつながることもある。
- d 鼻粘膜が腫れてポリープ（鼻茸）となっている場合には、一般用医薬品を長期連用することにより、回復が期待できるため、医療機関を受診する必要がない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 48

眼科用薬の成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 塩酸テトラヒドロゾリンを連用すると、異常なまぶしさを感じたり、充血を招いたりすることがある。
- b 塩化リゾチームが点眼薬の配合成分として使用された場合には、アナフィラキシーショックのような全身作用を引き起こすことはない。
- c イプシロン-アミノカプロン酸は、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して配合されている。
- d パルミチン酸レチノールは、視力調整等の症状を改善する効果を期待して用いられる。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 49

点眼薬の一般的な注意事項に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 点眼薬の容器に記載されている使用期限は、未開封の状態におけるものであり、容器が開封されてから、長期間を経過した製品は、使用を避けることが望ましい。
- 2 点眼後は、数秒間、まぶたを閉じて、薬液を結膜囊内^{のう}に行き渡らせるが、その際、目頭を軽く押さえると、薬液が鼻腔内^{くう}へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的とされる。
- 3 1滴の薬液の量は約 50 μ L であるのに対して、結膜囊^{のう}の容積は約 100 μ L であるため、一度に2滴の点眼が必要である。
- 4 別の人が使用している点眼薬は、容器の先端がまつげに触れ、中身が汚染されている可能性があり、共用は避けることとされている。

問 50

きず口等の殺菌消毒薬に使用されるヨウ素系殺菌消毒成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 黄色の色素で、連鎖球菌等の一般細菌類の一部に対する殺菌消毒作用を示すが、真菌、結核菌、ウイルスに対しては効果がない。
- 2 酸化作用により、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。アルカリ性になると殺菌力は低下する。
- 3 一般細菌類の一部（連鎖球菌等の化膿菌^{のう}）に対する殺菌消毒作用を示すが、真菌、結核菌、ウイルスに対しては効果がない。活性酸素による酸化、及び発生する酸素による泡立ちによる物理的な洗浄効果であるため、作用の持続性が乏しい。
- 4 細菌や真菌類の蛋白質^{たん}を変性させることにより殺菌消毒作用を示し、患部の化膿^{のう}を防ぐことを目的として用いられる。

問 51

外皮用薬の成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 抗炎症作用を持つ吉草酸酢酸プレドニゾロンは末梢組織の免疫機能を低下させ、真菌等による皮膚感染の副作用を引き起こすことがある。
- b 非ステロイド性抗炎症薬であるインドメタシンは喘息の副作用を引き起こす可能性がある。
- c 冷感刺激成分であるメントールは、皮膚表面に冷感刺激を与え、軽い炎症を起こして反射的な血管の拡張を促す効果を期待して配合される。
- d 抗菌作用も期待されるイオウは皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 52

歯や口中に用いる薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用を期待して、アラントインが配合されている場合がある。
- b 歯槽膿漏薬には、患部局所に適用する外用薬のほか、抗炎症成分、ビタミン成分等が配合された内服薬もあり、外用薬と併せて用いると効果的である。
- c 歯肉溝での細菌の繁殖を抑えることを目的として、口腔内にグルコン酸クロルヘキシジンが適用される場合があるが、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。
- d 口内炎用薬は、口腔咽喉薬や含嗽薬などと同時に使用することが、望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 53

次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 滋養強壯保健薬とは、体調の不調を生じやすい状態や体質の改善、特定の栄養素の不足による症状の改善又は予防等を目的とした医薬品である。
- b ビタミン等の補給を目的とした医薬部外品の保健薬の効能・効果の範囲は、滋養強壯、虚弱体質の改善、病中・病後の栄養補給等に限定されている。
- c 滋養強壯保健薬は、ある程度継続して使用されることによって効果が得られる性質の医薬品であるため、最低でも6ヶ月位は服用を続けることが重要である。
- d 医薬部外品の保健薬は、配合成分や分量は人体に対する作用が緩和なものに限られるため、カシュウ、ゴオウ、ゴミシ、ジオウ、ロクジョウ等の生薬成分も認められている。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問 54

禁煙補助剤（^{そしやく}咀 嚼 剤）の記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。なお、同じ記号の（ ）内には同じ字句が入る。

禁煙補助剤は、ニコチン置換療法に使用される、ニコチンを有効成分とする医薬品であり、^か噛むことにより、（ a ）から吸収されて循環血液中に移行する。

菓子のガムのように^か噛むと^だ唾液が多く分泌され、ニコチンが^だ唾液とともに飲み込まれてしまい、（ a ）からの吸収が十分なされず、また、吐き気や腹痛等の副作用が現れやすくなるため、ゆっくりと断続的に^か噛むこととされている。

また、禁煙補助剤は長期間に渡って使用されるべきものではなく、使用期間は（ b ）を目途とし、（ c ）を超える使用は避けることとされている。

	a	b	c
1	胃粘膜	6ヶ月	1年
2	胃粘膜	3ヶ月	6ヶ月
3	腸管粘膜	3ヶ月	6ヶ月
4	口腔 ^{くわう} 粘膜	6ヶ月	1年
5	口腔 ^{くわう} 粘膜	3ヶ月	6ヶ月

問 55

滋養強壯保健薬に含まれる成分とその配合目的との関係のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

(成分)	(配合目的)
a エルゴカルシフェロール	－ 夜盲症の症状の改善
b トコフェロール	－ 末梢血管障害の改善
c システイン	－ メラニンの生成抑制
d グルクロノラクトン	－ 関節痛、筋肉痛等の改善

1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 56

漢方処方製剤の基本的な考え方に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 患者の体質を虚証と実証に分類し、処方の選択を考える。
- 2 漢方薬はすべて作用が穏やかで、副作用が少ない。
- 3 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。
- 4 漢方処方を構成する生薬には、複数の処方でも共通しているものもあり、同じ生薬を含む漢方処方製剤が併用された場合、作用が強くなり現れたり、副作用を生じやすくなる恐れがある。

問 57

生薬の成分と期待される作用との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	(成分)		(作用)
a	ブシ	－	利尿、鎮痛等
b	カッコン	－	解熱、鎮 ^{けい} 痙等
c	ブクリョウ	－	利尿、健胃、鎮静等
d	サンザシ	－	健胃、消化促進等

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 58

消毒薬の誤用、事故による中毒への対処の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 酸やアルカリが目に入った場合は、早期に酸やアルカリを用いて中和する。
- 2 誤って吸入し、意識がない場合は新鮮な空気の所へ運び出し、人工呼吸などをする。
- 3 誤って皮膚に付着した場合、流水をかけながら着衣をとり、石^{けん}鹼を用いて流水で十分に（15分以上）水洗する。
- 4 誤って飲み込んだ場合の応急措置として、数分以内に多量の牛乳などを飲ませる。

問 59

殺虫剤に含まれている成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 有機リン系殺虫成分を誤って飲み込んでしまった場合、神経の異常な興奮が起こり、縮瞳、呼吸困難、筋肉麻痺等の症状が見られたときは、直ちに医師の診断を受ける必要がある。
- 2 有機塩素系殺虫成分は、ほ乳類や鳥類では速やかに分解されて排泄されるため、残留性や体内蓄積性は低い。
- 3 ピレスロイド系殺虫成分は、比較的速やかに自然分解して、残効性が低いため、家庭用殺虫剤に広く用いられている。
- 4 昆虫成長阻害成分は直接の殺虫作用ではなく、昆虫の脱皮や変態を阻害する作用を有する成分である。

問 60

尿糖・尿蛋白検査に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 正確な検査のためには、中間尿ではなく出始めの尿を採取することが望ましい。
- b 尿蛋白の検査の場合、原則として食後（1～2時間）の尿を検体とする。
- c 正確な検査結果を得るため、採尿後速やかに検査を行う。
- d 通常、尿は弱酸性であるが、食事などの影響で尿が中性から弱アルカリ性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

◎この問題用紙は、指示があるまで開いてはいけません。
受験者は必ず、次の注意事項を試験開始前によく読んでください。

注 意 事 項

- 1 問題用紙は、前半、後半ごとに1冊につづってあります。
- 2 問題の内容についての質問には答えません。
- 3 用件のあるときは、だまって手をあげ、係員の指示を受けてください。
- 4 解答用紙は、折ったり曲げたりしないでください。
- 5 試験開始の合図とともに、受験番号を解答用紙の決められた欄に正しく記入した上で、各位の数字の 欄に、 とマークすること。
なお、受験番号は受験票に記載されている5ケタの番号です。
- 6 試験問題は、前半が第1章（問1から問20まで）及び第3章（問21から問60まで）、後半が第2章（問1から問20まで）、第4章（問21から問40まで）及び第5章（問41から問60まで）の問題です。
- 7 各問題には、1から4までの四つの選択肢又は1から5までの五つの選択肢が書いてあります。そのうち、問題の解答として最もふさわしいと思われる番号を一つ選び、解答用紙の同じ番号の 欄に、解答例にならい、 とマークすること。

なお、一つの問題に二つ以上マークしたものは、無効となり正解とみなしません。

(解答例)

問 1 次のうち、静岡県の県庁所在地として、正しいものはどれか。

- (1) 沼津市
- (2) 静岡市
- (3) 浜松市
- (4) 富士市

(解答用紙)

問題番号		解 答 番 号				
	問 1	<input type="text"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	問 2	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

- 8 解答のマークは鉛筆（HB以上の濃い鉛筆）で濃く、はっきりとマークすること。
- 9 解答をまちがえたときは、消しゴムで「あとかた」のないようにきれいに消し、問題の解答として最もふさわしいと思われる番号の 欄にマークしなおすこと。
- 10 この問題用紙には、表紙に受験番号を記入してください。
- 11 問題用紙は、後半試験終了後に持ち帰りすることができます。
- 12 問題用紙の持ち帰りをしない場合には、問題用紙の表紙に×印をつけて退出してください。
- 13 最後に、受験番号が解答用紙に正しくマークされているか、いま一度受験票と対照して確認してください。